

マイクロン

サステナビリティの加速
サステナビリティレポート 2019

今日の驚嘆すべき革新速度は、記憶装置および情報処理の速度を上げるメモリソリューションにより押し進められています。マイクロンは、継続して技術力を前進させ押し進める製品を納入しており、当社はまた、自身のビジネスの範囲内で迅速な発展を遂げています。当社は、最高の人材に投資し、当社のオペレーションの環境への影響を低減させ、責任を持って投入製品を調達し、コミュニティと当社の成功を共有するために迅速に動いています。会社として、また企業市民として、マイクロンは、急速な変化に遅れをとらず、サステナビリティを加速させ、生活を豊かにするより多くの方法を見つけ出しています。

このレポートについて

本レポートは2019年4月に発刊され、2018年度のマイクロンテクノロジー社のサステナビリティに関する実績について取り上げ、別段の記載がない限り、マイクロンが管理するすべての組織を対象とします。

当社の2019年サステナビリティレポートは、Global Reporting Initiative (GRI) 基準：コアオプションに準拠して作成されています。GRIは、サステナビリティレポートに関して最も幅広く承認されたグローバルスタンダードで、GRIは、会社が、整合性を保ち比較可能な方法で企業のサステナビリティ情報の比較分析、評価および意思疎通を図るのに役立ちます。マイクロンについての追加情報は、当社の企業ウェブサイトのマイクロン会社案内のページ、また2018年年次報告書内で知ることができます。

当社の2019年サステナビリティレポートへようこそ。マイクロンは、当社の活動が世界中の人々の生活を確実に改善するよう、当社の製品および商慣行を進化させ、引き続き著しい発展を遂げます。

当社のビジョンは、どのように世界が生活を豊かにするために情報を利用するのかという命題において、変容を遂げることです。また当社は、医療、農業、運輸、都市インフラ、およびその他の多くの分野において、来たるべき数年後に世界中で劇的な改善改良を推進する一助となる当社の革新的技術ソリューションの膨大な機会を予見します。

これらの技術のブレークスルーが持続した長期的収益を創出する約束をするため、当社は、今日、当社自身の企業遂行の在り方にも熱心に重点を置かなければなりません。私は、過去においていくつかの進歩の領域をハイライトしたいと思います。

新規建設における環境面でのリーダーシップ：当社の最新の設備（製造からデザインセンターまで）は、LEED（エネルギーと環境設計におけるリーダーシップ）のゴールドステータスまたはより良い地位、水、エネルギーの節約および廃棄物を削減することを達成しました。

責任ある調達：当社は、積極的にサプライヤを管理し、複数のサステナビリティ組織への参加を通してより高い業界標準を推進します。52カ国、ほぼ6,000社のサプライヤを擁しており、注意深い調達管理により、当社自身のビジネスを旨く超えて伸長させる倫理的商慣行および環境管理を推進することができます。

サステナビリティ中心の企業リスクマネジメント：今年、当社は、私たちが直面する気候関連リスクおよび機会喪失に対するより良い洞察を得るためにリスク分析を拡充し始めました。当社は、来年のレポートにおける当社の知見について検討する計画です。

チームメンバーのダイバーシティとコミュニティ：当社は、イノベーションは多様性に関わるチームにより推進されると確信しています。当社は、引き続き可能な限り幅広い人材を引きつけ、受容的な文化を構築するために真面目に取り組んでいます。当社は、コミュニティへの影響を拡大するために従業員にも働きかけます。当社のチームは、2018年には世界中で100,000時間以上もボランティアをし、チームメンバーで200万米ドルに相当する直接的な貢献をしました。

私は、私たちの進展を誇りに思い、当社が行っている構造改革が将来の成長のための力強い礎を築くと確信しています。

当社のレポートを読んでいただき、ありがとうございます。ぜひ、マイクロンのサステナビリティの取り組みについてのご感想を sustainability@micron.comまでEメールでお寄せください。

Sanjay Mehrotra

社長兼最高経営責任者（CEO）、マイクロンテクノロジー

どのようにしてマイクロンのソリューションは、サステナビリティを加速させることができるか

往年のデスクトップコンピュータは、今日の携帯型ガジェットやウェアラブルガジェットと共通点は少ないように思われます。しかし、これらすべてのその他の現代のコンピューティングデバイスは、データ保存およびアクセスのための共用の要素技術で、半導体メモリやストレージに左右されます。そして、これらの極めて重要なコンポーネントの革新ペースが全体として技術開発のペースを決めます。

40年以上の間、半導体産業におけるリーダーとして、マイクロンはこの進化のあるゆる段階に参加してきました。メモリとストレージにおける急速な進歩は、イノベーションを解き放ち、個人の結びつきからモバイルデバイスを通してクラウド内でコンピュータ処理が可能となり、私たちの生活様式を成り立たせました。今や、新世代型テクノロジーは、社会や私たちの地球にとって可能なものをさらに飛躍させるための可能性を秘めています。マイクロンが構築したもののようなメモリとストレージソリューションが世界中でどのように持続可能な発展を加速させることができるかを見てみましょう。

自律型車両

自動運転車両は、毎秒数百の計算をするために広い帯域幅を必要とします。これらのスマート車両により、交通事故を減らし渋滞を緩和します。

ビッグデータ

研究者は、ガンのような病気の新しい治療につながり得る患者のゲノムのパターンを見つけるために高出力のデータ処理を利用しています。

人口知能

ニューラルネットワークは、会社のオペレーションのエネルギー効率を評価でき、その環境への影響を低減させる事業運営方法を見つけ出します。

拡張現実

デジタルオブジェクトを現実の世界に誘い込むことによって、拡張現実は、教育および職業訓練に対する新しい可能性を生み出します。

モノのインターネット

最先端センサーにより、農家が正確にその田畑の健康度を監視および管理できるなど、より良い意志決定のためのより深い洞察を得ることができます。

モバイルデバイス

モバイルデバイスにより、人々は銀行業務などのサービスにアクセスでき、世界経済に参加できるなど、ある意味で最初にインターネットへ接近しています。

マイクロンについて

マイクロンは、革新的メモリとストレージソリューションにおける業界のリーダーです。より早くより効率的なデータへのアクセスを可能にすることにより、当社の製品は、人工知能、機械学習および自律型車両など技術の進歩にとって重要不可欠です。当社は、世界中のマーケットで活躍する有数のテクノロジーカンパニーとの幅広い提携を通して主に企業顧客を支援します。

企業におけるビジョン、ミッション、価値

ビジョン

世界の人々が人生を豊かにする情報活用のあり方を変えます。

ミッション

メモリとストレージソリューションにおけるグローバルリーダーとなります。

価値

私たちは以下の価値を抱き、熱意と揺るぎない誠実さを持って実践していきます。

人々 - 私たちはお互いを思いやります。

イノベーション - 私たちは世界の将来を形作るソリューションを開発します。

粘り強さ - 私たちの決意は決して揺るぎません。

コラボレーション - 私たちは一つのチームとして一丸となって働きます。

顧客第一主義 - お客様を理解してこそその成功です。

サステナビリティ戦略

マイクロン製品およびテクノロジーにより、無数の方法において社会に恩恵を与える広範囲な応用が可能となり、さらにビジネス、オペレーションおよび調達慣行は、当社が経営する従業員、コミュニティに影響を及ぼし、同時に当社のお客様の持続可能性パフォーマンスにも影響を及ぼすことを当社は理解しています。当社は、以下のことを重点とするサステナビリティ戦略を通して、将来的にはできるだけ積極的にこの影響力を構築することを目指します。

- 思慮深い運営
- 人々に権限を与える
- 責任ある調達

この戦略を率先して実践することを中心に据え、企業の幅広い目標と透明性を通してステークホルダーの価値を推進します。

機会とリスク

サステナビリティを当社の事業へ組み込むことは戦略的に重要です。そのことは、機会を生かし、リスク管理をより良く行うためにマイクロンにとって役立ちます。例えば、サステナビリティは、競争が激しい人材市場において、有望な従業員を雇用する際の差別化となりえ、また現在の従業員の間でのエンゲージメント、満足度および生産性を高めるプラットフォームを提供することができます。天然資源の保全および廃棄物の最小化は、私たちがより規律正しくかつ効率的なオペレーションを実践でき、ひいては最終的損益を正比例して高めることとなります。そして、誠実さを持ってビジネスを行うことと社会的責任を果たすやり方において、当社が所在するコミュニティにおいて操業する許認可をサポートすることとなります。

これらの機会を実現するために業務を執行する一方、当社は、サステナビリティリスクの評価、認定および管理にも重点を置きます。気候変動、極度の天候事象および自然災害、並びにカーボンプライシングは、当社のサプライチェーン、オペレーションおよびマーケットを危険にさらします。当社は、当社のサステナビリティ、企業リスク管理、環境、衛生と安全、および責任ある調達計画の中で連携をしてこれらをより良く理解し機能するよう取り組みます。現在の取り組みには、オペレーションエネルギー効率の改善、財務内容の開示基準に沿った気候関連のリスクのレビュー、その上に科学をベースにした目標と標的の探索などがあります。これらの取り組みが私たちの戦略にレジリエンスを構築するためにどのように用いられているかについての詳細は、下の企業リスク管理セクションで確認できます。

カスタマーパフォーマンス

当社のお客様は、マイクロンを含めてサプライヤの環境上、社会上のガバナンスパフォーマンスに重点を置くことが増えています。多くのお客様は、透明性、リスク管理、環境上、社会上のパフォーマンス、責任ある調達およびその他の関連するトピックを直視し、自身のサプライチェーン管理および評判のリスク管理の一環としてマイクロンの全体的パフォーマンスを評価する基準の一つとしてサステナビリティを用います。お客様

は、品質、納入、技術、サービスおよび価格並びにサプライヤパフォーマンス評価および購買決定においてこの情報を盛り込みます。2018年、サステナビリティは、マイクロンで完全に組み込まれた販売パフォーマンス・メトリクスとなりました。当社の販売チームリーダー、得意先担当マネージャーおよびサステナビリティ担当リーダーは、当社のお客様と緊密に協力して、当社のサステナビリティへの取り組みおよびパフォーマンスについての情報を共有し、行動を推進し、信頼を構築します。

サステナビリティガバナンス

マイクロンのサステナビリティプログラムは、全社から選ばれたシニアリーダー並びに専任サステナビリティチームで構成される機能横断的サステナビリティ審議会を通して透明性と説明責任の観点から飛躍的な進歩を遂げ続けています。以下の図表が示す通りに、サステナビリティは、マイクロンの取締役会の最高レベルまで及ぶ監視付きで会社全体を通して管理されます。

企業リスクマネジメント

当社の企業リスク管理（ERM）プログラムには、リスク、機会および対応を特定し監視する統一されたアプローチがあります。マイクロンの目標は、会社全体にわたるERM実践を統合し、ガバナンス、戦略、目的設定および日常業務における意志決定を改善することです。当社は、ツールと知識の提供、オープンなグローバルコミュニケーションの促進および継続的に当社の所見を監視し報告することによりこのことを実践します。マイクロンのリスク管理委員会はCEOにより任命され、取締役会および監査委員会に重要な判明事項を報告します。

リスクが認識されると、リスクマネジメント担当者がビジネスインテリジェンスと動向に基づいた正式な評価と分析を行います。リスクは、4つのカテゴリー、すなわち、戦略、オペレーション、内部および外部のコンプライアンス、および財務に分類されます。各々のこれらのカテゴリーにおいて、定められた許容範囲があります。当社がさらされる会社の全体的なリスクに基づき、問題に優先順位をつけます。次にリスクマネジメントチームが対処行動を提言し、マイクロンのリーダー達がそれぞれの責任領域に影響するリスクの管理について説明責任を負います。ERMおよびサステナビリティの整合性を取る一環として、当社は、当社のERMポートフォリオへ気候、エネルギーおよび水問題を含めて、重要性評価からサステナビリティリスクを取り入れています。危機および事業の継続管理は、事業の中断が発生した場合に応答、復旧、そして業務を復元するための重要業務を準備することでERMプログラムをサポートします。あらゆる重要業務に事業継続計画が実施されており、全災害アプローチを取っています。これは、人材、設備、ITまたはサプライチェーンなどバリューチェーンのすべての要素が中断した場合に備えていることを意味します。

重要性評価

当社のサステナビリティ戦略を裏付けると、当社の持続可能性カウンシルの仕事、およびこのサステナビリティレポート内で扱われたトピックは、重要性評価から得られた洞察です。3年毎に1回、マイクロンは、重要性評価を実施し、組織が確実に顧客問題、投

資家問題、従業員問題、政策決定者問題、コミュニティメンバー問題およびその他のステークホルダー問題が慎重に取り扱われるよう用いる実践は、サステナビリティイニシアチブ、目標および報告において反映されます。重要性評価は、当社の事業のあらゆる観点を網羅するサステナビリティ問題に関する広範囲なリストから始まります。内部および外部のマイクロンのステークホルダーはこのリストをレビューし、その後、2つの質問に答えます：

- マイクロンのビジネスにとって最も重要なものは何ですか。
- あなたにとって何が最も重要ですか。

結果については、当社のステークホルダーにとって最も重要な問題と当社の事業の成功にとって最も欠かすことができない問題との関連性を視覚化するためにマトリクス上で計算されグラフが作成されます。当社は、このマップをツールとして使用し、当社は、意義深い変革を推進し、透明性を高める最も偉大な可能性を持つそれらの領域を認識します。

マイクロンは、2018年度に最新の重要性評価を実施し、特定された優先順位は、以下のようになります：

- 最も重要な問題：
 - 従業員の能力開発とのエンゲージメント
 - 責任ある調達
 - 気候変動と温室効果ガス
 - データ保護とプライバシー
- 追加的重要な問題：
 - 職場の衛生と安全
 - 製品の利用性と完全性
 - 倫理行動
 - 業務と施設の管理
 - ダイバーシティとインクルージョン
 - エネルギー
 - 水

行動規範

今日の法律および企業行動の標準は複雑化しています。企業行動倫理規範は、マイクロンがビジネスのリスク、法的、倫理的な問題に適用する基本的なルールを概説するための実践的な情報源となります。また、ふさわしくないと思われることを目撃した場合には声をあげるといふ、マイクロンのチームメンバーとして各自が持つ責任について説明しています。この行動規範は、互いに誠実さを持って、市場において投資家、コミュニティおよび事業を行う際に、従業員、組織、請負業者およびサプライヤを支援します。

マイクロンのシニアバイスプレジデント、法律部門および一般審議会は、当社のチーフコンプライアンス担当責任者であり、一般に公開されている規範の継続した維持管理に責任があります。この規範に加えて、当社は、紛争鉱物、環境、衛生と安全（EHS）、

人権、奴隷および人身売買などに関するものを含めたグローバルポリシーを採用しています。

当社のグローバルポリシーの枠組みに従って、取締役やバイスプレジデントレベルの執行役員から構成される政策委員会がグローバルポリシーをレビューし詳しく調査し、最初は、シニア執行バイスプレジデントから構成される政策委員会が承認し、最後に当社の最高経営責任者（CEO）が承認します。

従業員は、定期的なオンライントレーニングを受け、この規範を読み、理解し、引き続き遵守してきたことを毎年認証します。また、当社は頻繁かつ目標を定めたライブグループおよびマンツーマントレーニングを実施します。規範および7つの言語の翻訳を含むその他のすべての方針は、インターネットのシェアポイントサイト上で全従業員が利用可能となります。

当社は、すべての従業員、ベンダーおよび第三者を教育および奨励し、従業員が当社の規範違反の疑いを目撃した場合、直属のマネージャー、マイクロンの法務部門に対して、またはコンプライアンスホットラインを通して声を上げます。このホットラインは、第三者が運営し、毎日24時間利用可能で、すべての共通使用言語を通してアクセス可能です。これは、匿名報告機能を提供し、利害紛争の可能性を避けさせるよう設計されたプロトコルを実行します。

ステークホルダーの関与

誰が関わるのか
が問題となるのか

どのように関わるのか

なぜそのこと

従業員	<p>常時の監督者の相互連絡 シニアリーダーが主催のミーティング 懸念を報告するためのコンプライアンスホットライン グローバルかつローカルコンテンツである sustainability@micron.com とのイントラネット、そこでは、従業員はサステナビリティ関連の提案を共有することができます。</p>	<p>すべての従業員が私たちの成功に貢献する文化を構築するために</p>
顧客	<p>定期会議 顧客スコアカード 顧客要件文書 産業組織内のメンバーシップ</p>	<p>どのように私たちはお客様の将来の見通しから実行し、社会問題や環境問題に関する業界のコンセンサスをどのように築くかを理解するために</p>
行政組織	<p>私たちが以下を運営する組織におけるメンバーシップ： 台北の米国商工会議所 欧州自動車技術審議会 欧州リサーチプラットフォーム アイダホ州商工業協会 イタリア産業貿易協会 北部バージニア技術評議会 シリコンバレーリーダーシップグループ 米国商工会議所 米国情報技術局 米国台湾ビジネス協議会 バージニア州製造業者協会</p>	<p>当社のビジネス行動を支配する法律の理解と遵守をするために</p>
株主	<p>年次株主総会 四半期収支報告 1対1のアナリストミーティング 年次報告書およびサステナビリティ報告書 Eメール</p>	<p>透明性を育むために、また確実に当社は、株主、投資家、およびアナリストコミュニティのニーズを満たすよう徹底するために</p>
サプライヤ	<p>懸念を報告するためのコンプライアンスホットライン サプライヤパフォーマンスのレビュー 第三者による監査 責任ある事業提携メンバーシップ サプライヤ品質要件文書 トレーニング 契約条件 リスクのプロファイリング</p>	<p>社会基準および環境基準に関する当社の期待についてのオープンダイアログを維持するために</p>
コミュニティ	<p>STEM教育サポート 地方、地域および国家公共政策対話の約束 財務の寄付 従業員のボランティア精神</p>	<p>マイクロンの社内の共有価値と当社が操業する場所にある組織との関係を構築するために</p>

製品とイノベーション

マイクロンのメモリとストレージソリューションは、数え切れないデジタルデバイスの中から中心となります。当社は、そのソリューションをより速くより効率的に機能させるため絶えず革新しています。

メモリとストレージ技術におけるグローバルリーダーとして、マイクロンのソリューションは、人工知能、工業自動化、IoT（モノのインターネット）、自律型車両およびクラウドコンピューティングなど、今日の最も重要な進歩の一部で極めて重要な役割を果たします。これらのようなイノベーションが主流となり、メモリとストレージの需要が増すと、データの解析、アクセスおよびその及ぼす影響は、増大するのみです。

メモリとストレージは、かつてハードウェアコンポーネントで標準化されていました。今や、多様化した要求は、単なるメモリの増大の要求だけでなく、インテリジェントメモリとストレージアーキテクチャの新しいタイプを要望するソリューションに相応して特化へとつながってきました。このことは、当社にとって、それらのニーズをより良く理解してお客様と協力して懸命に働く機会を創出します。

メモリとストレージコンポーネントは、コンピュータエネルギー使用から車両の安全まで各種最終製品のサステナビリティに影響を与えます。このことが私たちが一貫してパフォーマンスの向上、より多い容量を提供するためのリサーチ投資、より高まるユーザープライバシーおよびデータ保護、より速いデータ転送率、より少ない電力消費、高まるエネルギーおよび材料効率、および向上した信頼性に向け継続して努力奮闘する理由です。サプライヤーとのエンゲージメント、技術開発および法令遵守を通して、当社は、従業員の安全および製品内の危険物質の低減を保証する新材料を評価します。

技術の将来への投資

2018年、マイクロンは、テクノロジー業界を代表する人々が、将来のテクノロジーの動向とメモリとストレージ技術がどのように産み出されるかの方法について討議するために参集し、初開催のインサイトイベントを開催しました。今回のイベントでは、マイクロンベンチャーズは、人工知能（AI）に注力しているテクノロジー分野のスタートアップ企業をターゲットにしたベンチャーファンディングで最大1億ドルの投資を行い、そのうちの20%は女性やマイノリティの人々などが起業したスタートアップ企業を対象にすると発表しました。2006年に操業開始したマイクロンベンチャーズは、マイクロンの戦略的利害に合わせてテクノロジー分野のスタートアップ企業に投資します。

製品効率

当社の製品のエネルギー需要は、テクノロジーのグローバルな環境への影響に貢献します。

このことが、当社がお客様と提携して、エネルギー効率に対する厳しさを増す要求条件および期待要求を満たすメモリとストレージソリューションを実現する理由です。マイクロンのシステム電源計算機は、オンラインツールで、お客様がシステムおよびアーキ

テクチャを構築し、設計の決定を下す際に、メモリパワー要件を予測できるようにします。

例えば、携帯装置上で、かつてないほど多くの演算データ処理能力の要求が高まる場合、これらのデバイスがパフォーマンスとエネルギー効率を交換しないことが重要不可欠です。2018年、マイクロンは、モバイルデバイスおよびアプリケーション用の業界最高容量であるモノシリック12ギガバイト、低電力、倍速データ転送率 4倍 (LPDDR4x) ドラムの生産を開始しました。LPDDR4x DRAMは、1Y-nm (10ナノメートルクラス) プロセス技術を基に生産され、その結果、バッテリー消費電力の効率化および低減の向上となります。それは、前の世代のDRAM技術として同様のデータ速度を提供しますが、10パーセント少ない電力まで使用できます。

データ保護とユーザープライバシー

業界の動向や脆弱性の可能性にも目をくばりながら、当社は、ユーザープライバシーとデータ保護に関するお客様のニーズを理解するためにお客様と緊密に協力し合います。

成長の特定分野、および脆弱性は、IoT (モノのインターネット) およびIIoT (製造業における、モノのインターネット) に特有です。マシン同士のコミュニケーションの手段として始まったものが、世界中で何百万のコネクティッドデバイスの複雑化したネットワークへ進化しました。

IoTの成長の結果として、マイクロンのイノベーションの対象は、今日、膨大な量の新しいデータのストレージソリューションだけでなくIoTデバイスのセキュリティも含まれます。グローバルリサーチとアドバイザリー会社のガートナーは、2020年までに、25パーセント以上の特定企業への攻撃は、IoTに関係すると予測しています。ファクトリーオートメーション装置から自動車、スマートホーム装置までのあらゆるものに実装されている組込型システムが如何にサイバーアタックを受けやすいとしても、その脅威は、広範囲に及びます。

日常でスマートデバイスは、サイバー犯罪の高リスクのある入口点となっており、マイクロンのAuthenta™ 技術は、新しいコンポーネントを追加することなく、既存の不揮発性メモリソケットに対してハードウェア防御強化層を提供します。このユニークなセキュリティソリューションにより、IoTデバイスのメモリプロバイダーとしてマイクロンの価値は増しています。2018年、当社は、Authenta技術を用いて可能となった新しいMT 25Q NORフラッシュを導入しました。このメモリソリューションは、コネクティッドデバイス自体の整合性を高めるだけでなく、デバイス上で動作するソフトウェアに対しても防御を拡張するハードウェアをベースとした新しいレベルのセキュリティを取り入れています。

Authentaのような技術は、マイクロンのマーケットおよび業界リーダーシップにより築かれます。当社は、Trusted Computing Group (TCG) のアクティブなメンバーです。TCGは、自己暗号化ドライブ (SED) のオープンスタンダードと仕様を開発、維持する業界

標準化機関です。10年前、当社は、モバイルコンピューティングを対象とした業界で最初のソリッドステートのSEDの一つを発売し、それ以来、厳しい連邦情報処理基準 (FIPS) を満たすドライブを開発しています。

危険物質と輸出コンプライアンス

製品に特有のもう一つのサステナビリティの重点領域は、お客様や環境に対してリスクを呈することがある危険物質です。

マイクロンのEHSおよび製品コンプライアンス担当専門家は、特定有害物質の使用制限に関するEU指令（RoHS）および化学物質の登録、評価、認可および制限（REACH）などの危険物質に関する法律および顧客要件に確実に準拠するよう協力します。今日、これらの規制は、有害物質に重点を置いています。究極的に、有害物質は、危険であると認識させられる物質と同時に有害となる可能性がある物質を含む制限物質の幅広いリストの一部となります。積極的な製品コンプライアンス、検証プロセスおよび認証プロセスにより、当社は、確実に適切な制限物質管理と現在および将来の必要条件を遵守する一方、新製品をいち早く納入することができます。

幾分、危険物性を有す高純度化学物質は、マイクロンの製造プロセスにも必要です。

内容物およびパッケージングの定期的な点検は、当社の製品の環境への影響を低減する一助となり必要です。社内のEHS組織、製品コンプライアンスグループおよびグローバル調達チームが、マイクロン製品およびプロセスについて顧客要件および法的な製品コンプライアンス要件を満たすよう徹底して一致協力します。新規物質が関連規制リストに追加される場合、当社の調達チームは、サプライチェーン全体を通して新しい要件について意志疎通し、サプライヤにマイクロンの期待および該当文書について思い出させ、サプライヤが規制品目を使用するかどうかに関してサプライヤ各自からの迅速な回答を要求します。当社は、サプライヤにはREACH規制に盛り込まれた可能性に関する候補リストの進展を注視することも要求します。すべてのこれらの取り組みは、品質、技術、サービス、納入およびサステナビリティへの期待を満たす製品を提供するための並々ならぬ努力をしているという認識をお客様に与えるためです。

さらに、マイクロンおよび当社のすべての系列子会社は、すべての該当する輸出および経済制裁法および規制を遵守します。輸出法への準拠は、当社が操業する国の安全とセキュリティを保護するために極めて重要で、当社製品、ソフトウェアおよび技術は、害を与えようとする事業者や人の手に落ちないように徹底します。

環境

当社が製造設備を稼働させるために省エネルギーおよび節水をする場合、そのことは、ただ単に当社の利益とはなりません。当社のお客様、コミュニティおよび環境にも恩恵を与えることになるのです。

当社のオペレーションの環境への影響を理解することは、当社の製造プロセスを理解することに資することになります。当社は、シンガポール、台湾、日本および米国におけるフロントエンド施設（工場）でメモリチップ（またはダイ）を製造します。最先端のプロセスを用いて、当社は、メモリとストレージソリューションを構築するためにシリコンウエハに特殊材料を加えたり除去したりします。

マイクロンの製造は、クリーンルーム環境内でナノスケールで実施されます。それぞれのウエハは、多くの製造工程を通過しますが、そこでは、化学物質および材料を各チップの機能を発揮させるために正確に利用します。浮遊煤塵、温度および湿度は、ウエハが特別なツールセットを用いて、各々10プロセスエリアまで何百回と通過する時に、品質を確保するために厳重に管理されます。すべての工程が終了するまで新しいウエハが工場に搬入される瞬間から、このプロセスは、1ヶ月以上十分かかります。完了すると、ウエハは、その構成ダイへ分割され、その後、無数の技術を可能にするために設計された多数のカスタマイズされたフォーマットへ組立られます。バックエンドオペレーションは、シンガポール、台湾、マレーシアおよび中国の施設で実施されます。

このプロセスには、工場内で特別な装置を稼働させるためにエネルギーを必要とし、クリーンルーム環境を維持管理し、水を使って確実にウエハの清浄度および品質を確保し、そして、可能性として危険化学物質を使用することに関わります。当社は、エネルギー効率の改善、水の再利用および再使用、地元の地下水供給源に頼りすぎず、製造工程で使用される化学物質を適切かつ安全に管理し、潜在的リスクを特定して、当社の製造環境へ持ち込まれるすべての材料を点検して、これらのオペレーションへの影響を最小限に抑えるよう努力します。

当社の取り組みにおいて、私たちを導くために、マイクロンは、2017年に目標を設定し、水および廃棄物の再利用を増大させ、エネルギー使用および関連する温室効果ガス（GHG）の排出を低減します。当社は、2016年を当社のベースラインの年として用い、2022年までに10パーセントの節約を達成するために省エネプロジェクトを実施することを含めて、これらの目標に向かって前進しつづけます。当社は、2019年にこれらの目標の見直しを実施しており、当社の2020年の報告で更新する見込みです。

EHSへの取り組み

当社の各々の施設および稼働ロケーションはユニークです。

計画策定および生産の初期段階において、当社が操業する環境およびコミュニティに対するオペレーションへの影響を低減させるための機会を特定する取り組みをします。このことは、グローバル戦略とローカル適応の融合が必要です。当社は、以下のことを含めて、数多くの方法でこのことを実行します：

- 当社のグローバルオペレーション全体を通してプロらしいサイトをベースとした環境衛生と安全（EHS）の堅牢なネットワークの実現
- 環境リソースを保護する目的で製造、インフラおよび事務所スペースを建築する機会の模索と実行
- すべての製造所で2015年ISO 14001および2007年OHSAS 18001の環境上、安全上の管理システムの実施と認証
- （多くの場合、地方法令要件を超える）企業基準に対する当社の製造における重要な環境慣行の整合
- 企業監査および第三者監査を通して、当社の環境パフォーマンスの精査を求める
- 当社のグローバル製造ネットワーク全体を通して実施された戦略的企業環境サステナビリティ目標の採用

近年、当社は、時間をかけて当社のパフォーマンスを向上させるエネルギー、水および廃棄物の効率化、LEED基準およびその他の配慮を取り入れるなど、施設設計および工事へのEHSの配慮に関しての事前統合を大いに強化しています。当社は、エンジニアリングコンサルタントおよび設計会社と協同作業を行い、将来のオペレーションのための全体的効率向上を図るための機会を評価する全体的システム設計に重点を置いて専門家を交えた討論会を開きました。

水の監視

水は、半導体の製造において重要不可欠な資源です。

当社の製品を製造するために用られる各ウエハは、製造プロセスの品質を確保するために、超純水に依存する一連の洗浄工程を経ます。半導体技術が複雑化されるに従い、水の需要が増大してきました。従って、私たちが使用する水の削減、すなわち、私たちが使用する水を適切に扱うことは、マイクロンの最上位の環境優先順位の中に入ります。

マイクロンは、水の効率性を向上し、原水の需要を削減する機会を見いだすことで積極的に水の消費量を管理しています。当社の製造サイトでは、超純水を業務で使った再利用水と地域の原水源からの水を組み合わせて生成します。当社のオペレーションから出る汚水は、再利用されず、またサイトで再使用されなければ、地域の基準に沿って処理され、排出されます。

2018年の業績

2018暦年の水の総合計取水は、上流工程および下流工程製造サイトで、48,311,910立方メートル（3m）でした。この数字は、当社の2017暦年の使用量からのものであり、製造能力での増大を反映しています。この水消費の数字は大きいですが、当社の製造現場でのグローバルな水再利用イニシアチブにより、同時期において平均でおおよそ50パーセントの再利用率を達成しました。

水の再利用を増大させるために、私たちにとって、カギとなる機会は能力拡大プロジェクトを通じて存在します。益々、当社は、当社が既存工場で水使用の効率性を改善するために資源に投資するのと同じ時期に新しい建屋および工業プロセスの設計段階で節水対策を取り入れています。

水使用の管理

ウォーターフットプリントの持続可能な管理は、私たちが水を得る場所を理解することから始まります。世界的には、製造所での主要な水源は、地方自治体による供給で、すなわち、地域の水管理当局との連携の重要性が強調されます。当社は、様々な地形、気候、流域およびインフラの影響を理解することを求めて、その地域の事情の範囲内でこれらの関連性に配慮します。その後、当社が各サイトで水管理に対するベストアプローチを決定するためにこれらの評価査定を適用します。

2018年、当社は世界資源研究所（WRI）水路ツールを用いて水のリスク評価を実施しました。この評価を通して、私たちはマイクロンの総取水量の35パーセントは、水資源の逼迫する地域—主にシンガポールおよび中国の製造所から調達されることを知りました。台湾や日本は、当社が重要な製造能力を有している水資源の逼迫する地域に加えられます。

当社は、世界のこれらの地域における水管理に対して混合アプローチを取ります。当社の工場施設での水再利用システムに加えて、当社は、拡張したシンガポールの北方沿岸製造サイトで雨水捕集インフラを設置しており、埋め立て施設および/または淡水化設備から98パーセントの水を調達します。

アイダホ州ボイジーでは、当社はそのロケーションで過半数の水を供給する地域の帯水層に対する影響の可能性には気を配っています。当社は、技術に対して初期投資家であり、そのことにより帯水層に補充することが可能となり、取水への影響を緩和することができます。

給水および消費緩和に対する当社の取り組みは、地域に反映される一方、工業廃水排出は、すべての環境上の法的要件を満たすことを保証するコミットメントは世界的に共通しています。各マイクロンのサイトは、サイトから出る廃水の品質が、該当する水品質基準を確実に満たすように重要な水処理インフラに投資しています。サイトは、進行中のオペレーションおよび時間をかけて適切なパフォーマンスを確保するために廃水システムの日常の維持管理を担当するスタッフも雇用します。廃水処理方法は、サイトにより

異なることがあります。ろ過膜、イオン樹脂吸着、析出、生物酸化および中和などがあります。当社は、定期的に環境基準に準拠して廃水排出のサンプルを採取します。2018暦年において、当社は、85パーセントの排出物が公営運営処理工場へ送られ、37,968,559 m³の処理済み廃水を排出しました。

危険物質と廃棄物管理

ウエハを何百の個々のダイへ変える製造プロセスは、堆積、パターニング、選択的除去および洗浄用の酸、基材および溶剤などの化学物質および材料の使用から構成されています。

当社は、製造プロセスにおける有害化学物質の継続的な削減に積極的に取り組むプログラムを執行中で、埋め立て処分を削減し、当社が生み出すあらゆる廃棄物に関して新しいリサイクルの機会を見いだすことを目標としています。

これは、承認を受けた化学物質だけが当社設備で使用されることを保証する厳格な化学物質の検討プロセスから始まります。このことを行うことで、禁止され、または制限された化学物質がオペレーションに到達することを防ぎ、私たちが化学物質のライフサイクルを通して確実に適切な取り扱い、再利用および廃棄を行うために役立ちます。さらに、私たちが化学物質の削減および撲滅イニシアチブの評価をするために化学物質の利用プロファイルを記録、理解する上でも有用です。

化学物質のスクリーニングの域を超えて、私たちはデューデリジェンスをあらゆる新しい廃棄物ベンダーに実施し、彼らの慣行が適用される法的要件を満たし、周辺環境の保護につながっていることを確認します。廃棄設備がこの評価に合格した場合、マイクロンは評価を定期的に更新し、その設備で廃棄物質が時間をかけて確実に安定的かつ効果的に管理されるよう徹底します。

ここ2、3年の間に、私たちは以下を含むいくつかの有害物質と廃棄物を削減および管理するための対策を様々なサイトで講じました。

- 製造に使用した化学物質のサイトでの再利用
- 無機スラッジのサイト外工事へのリサイクル
- 溶媒と酸を再利用のためサイト外への搬出
- 溶媒の混合液を成分の再利用のためにサイト外の蒸留施設へ搬出

私たちの属するダイナミックな業界を考慮し、新しいリスクまたは機会をもたらす可能性のある有害物質に関する状況に常に注目しています。私たちは化学物質の消費および廃棄物の量を削減する方法を探求し、廃棄物のリサイクル率を向上する新しい機会を見いだすことに尽力しています。

マイクロンは、廃棄物削減に関して従業員とも関わっています。従業員は、当社のグローバルウェルネスプログラムに参加して報償金を得ることができ、そのプログラムに

は、家庭での省エネ、節水、およびムダの削減のヒントが含まれています。従業員は、職場から無害の廃品材料を家に持ち帰ることにより「デザインブル・トラッシュ」賞を勝ち取る競争もできますし、別の方法では、ゴミ埋め立て処分や焼却およびそのゴミを新しく有益な使用にアップサイクルできます。

エネルギーとGHG排出量

お客様のサプライチェーンにおいて、マイクロンの低電力装置は、サステナビリティおよび気候変動イニシアチブをサポートしますが、当社の製造プロセスは、大量のエネルギー消費型プロセスで推移しています。

当社は、2016年に前年比エネルギー削減目標を設定し、2022年までに少なくとも10パーセントのエネルギー削減（2016年のベースライン年エネルギー使用比での削減でキロワット時（KWH）で計測）を達成するために、2017年において複数年の目標へ移行しました。2016年以降実施された統合節約プロジェクトは、5パーセントを達成しています。

2016年にエネルギー使用と比較した節約全体的に、世界全体にわたり、当社の2018年エネルギー消費量は、すべての製造サイトを含めて、7,951,216メガワット時（MWH）でした。

LEEDを通して私たちの取り組みを結集

マイクロンは、新建屋など強い影響に関する可能性が最大となる地域に重点を置くことにより省エネを進展させます。当社は、エネルギーと環境設計におけるリーダーシップ（LEED）、設計の一環としてのグリーン建屋に対する世界最高格付けシステムなど、持続可能な建屋の特質を検討配慮します。バックエンドオペレーションおよび設計センターである当社の最新の工場建屋は、各々LEEDステータスを達成しています。

シンガポールにおいて、マイクロンの2018年10棟の工場建増しは、最近、LEEDのゴールドステータスを勝ち取りました。255,000平方フィートの工場は、その設計および建設に省エネ、節水および屋内空気品質を向上させる戦略を用いることで差別化を獲得しました。例えば、建屋の外装の調光ガラスは加熱および冷却に必要なエネルギー削減を自動的に太陽光を暗くします。屋上の雨水貯留タンクおよび再利用プロセス水のシステムは、建屋の水のニーズを減少します。結果として、この増床は、標準的な工場よりもエネルギーおよび水効率を30パーセント削減します。LEEDゴールドステータスに加えて、施設は、BCAグリーンマークプラチナ賞を受賞し、持続可能なデザインに対してシンガポールの最高栄誉賞を受賞しました。

マイクロンの台湾のバックエンド（MTB）も、最近、LEEDゴールドステータスを獲得しました。プロジェクトは、地上5階、地下3階を含めて、全部で804,523総平方フィートあります。プロジェクトは、低流量水取付具および高性能給水設備を設置して38パーセント飲料水使用を減らしました。施設はまた、19パーセント、エネルギーコストを削減し、既存の構造要素の94パーセントを再利用し、埋め立てからサイト上に発生した建設のムダの80パーセントを転用し、建屋の資材の23パーセントの再利用材を使用しました。

イタリアのヴィメルカーテのサイトでは、達成可能な最高の認証レベルであるLEEDプラチナ認証を得ました。この建屋に取り入れたイノベーションには、汚染物質、VOCおよびNO_xを緩和する光触媒のプレキャストコンクリートパネル、地域の帯水層への水注入

を増大させる機能を持たせて水需要を低減し、事務所エリアには照明を引き、そして空気流および使用頻度に基づき照明を調節する会議室内の二酸化炭素センサーなどがあります。

温室効果ガス（GHG）排出

当社のGHG管理の取り組みは、これらの排出に特有のデータを収集、分析および報告することから始まります。CDP、つまり正式には、カーボンディスクロージャープロジェクトを通してGHG排出に関して報告します。CDPは、GHGおよび会社、都市、国および地域のためのその他の環境基準に関する標準化された環境データの報告を可能にする主要な国際組織です。2018年、当社は引き続き当社の取り組みとディスクロージャーを改善し、CDPの気候および水の安全リスト上でBスコアを受けました。また、2018年に、マイクロンは、私たちがオペレーションおよびサプライチェーンにおいて直面する気候関連のリスクおよび機会のより良い洞察を得るために第三者企業と取り組み、またエネルギー使用および関連するGHG排出を削減する方法を模索するために気候リスクアセスメントおよび科学をベースとした目標シナリオに取り組み始めました。当社は、2019年の私たちの取り組みの中へこれらのアセスメントからの所見を組み込みたいと思っています。

半導体産業は、製造プロセスから結果的に生じる有力な排出源であるフッ素系温室効果ガス（F-GHG）の排出を削減するために取り組みを行っています。

F-GHGの代替案の長年の研究調査にかかわらず、現在、適当な代替案が存在しません。しかし、当社は、超純水ユースポイントの減少を通してF-GHG排出の削減にまさに焦点を当て、F-GHG排出の75パーセント以上の削減を実証して、環境上および社会上の責任アセスメントに関するIEEE p1680.1基準を達成します。

マイクロンは、建屋管理およびHVACシステム、光センサーの設置、老朽化した装置の交換、およびシンガポールで管理棟の系統電力需要を低減させる太陽光パネルの増強を通して排出を削減することにも重点を置きます。

責任ある調達

当社は、世界を紡ぐ複雑なテクノロジーサプライチェーンにおいて一つにつながっています。継続した改善の加速および透明性の推進によって、当社は私たちの業界中にくまなく人権および環境管理における向上を推進することができます。

マイクロンは、事務用品から高度に特化した設計コンポーネントまで、オペレーションをサポートする必要がある様々な材料、装置およびサービスを含む複雑に入り組んだサプライチェーンを管理します。2018年に52カ国で5,950社のサプライヤを擁して、当社のサプライ拠点の管理することは、重要な業務となります。社会的な環境基準に関しての期待を含めて、新規および既存のサプライヤが確実に当社の期待を満たすようにサプライヤの評価および承認プロセスを導くには、専属のチームが必要です。当社のティア1サプライヤ、すなわち、当社が直接的に調達するサプライヤに対して当社の期待を伝えることにより、当社は、サプライチェーン全体を通して責任ある慣行を再現させることに努力します。

当社は、レスポンシブルビジネスアライアンス（RBA、旧電子業界CSRアライアンス）の参加メンバーです。RBAは電子業界の大手企業で構成されており、協力しながら責任ある労働条件、倫理的な商慣習、電子業界サプライチェーン全体を通してグローバルな環境の管理を推進しています。RBAのメンバーが守るべきRBA共通の行動規範は、労働、安全衛生、環境活動、倫理、および管理体制に対するサプライチェーンのパフォーマンスの期待に対応するものです。

サプライチェーンのリスクアセスメント

当社は、自然災害から財務の脆弱性、人権に対する違反行為まで無数の潜在的なサプライチェーンのリスクを監視し取り組みます。

各々の当社の戦略的サプライヤの相対的リスクのプロファイリングおよび管理により、サステナビリティに関して業界基準やマイクロン基準を支持し維持する一方、継続的生産およびお客様への製品納入サポートを行うことができるレジリエントなサプライチェーンを確保することができます。

このプロセスの点検事項として、当社は、サプライチェーンにおける違反報告を行うコンプライアンスホットラインを維持管理します。当社はトレーニングも提供し、2018年、マイクロンは当社のサプライヤに対して責任と期待に関して焦点を当てたトレーニングプログラムを実施し、1,100社以上のサプライヤの代表者がトレーニングを受けました。

マイクロンは、自社の商行為規範、倫理、およびRBA行動規範に沿ってサプライヤのリスクアセスメントを実施します。さらに、当社は、すべてのサプライヤが以下のことを遵守する証拠を提供することができるよう期待しています。

- 会社本部および全施設の年次RBA自己評価調査票（SAQ）、またはマイクロンの調達コンプライアンス評価の実施（SCA）

- 高リスクとして特定された施設のRBA監査または同等の監査の実施
- 米国腐敗行為防止法
- 英国贈収賄法
- 2010年カリフォルニア州サプライチェーン透明法
- 2015年英国現代奴隷法
- 新しい製錬所の増設、または既存の製錬所の状況に変化があった場合は、最新の紛争鉱物報告テンプレート（CMRT）
- 6か月毎または製品の変更によって必要となる場合に更新・提出されるREACH（化学物質の登録・評価・認可・制限）
- 12か月毎、または製品の変更によって必要となる場合に更新・提出されるRoHS（有害物質に関する制限）
- CDP（正式には、カーボンディスクロージャープロジェクト）
- サステナビリティ/企業の社会的責任（CSR）または同等の報告

マイクロンは、サプライヤが可視化マッピングおよびサプライヤアセスメントの提供を通して透明性を規定するよう要請します。要請された情報には以下のことが含まれます：

- 製造所、緊急連絡、製造回復時間および重要なサブティアサプライヤの場所などのデータポイント
- 製造所での事業継続プロセスおよび計画
- マイクロンのサプライヤチェーンに関連した事象への影響通知
- 倫理、環境、強制労働および安全に関するプログラムおよび方針

サプライチェーンのリスク管理方法

マイクロンの調達リスクグループおよびコンプライアンスグループは、環境、人権および地政学上のリスクなどのサプライチェーンリスクマネジメントを監督します。このチームは、新規および現役のサプライヤ審査、評価、調査、リスクプロファイリング、開発および監査などレジリエントで、法令を遵守し、持続可能なグローバルサプライチェーン展開を可能にするミッションを継続して完成させます。各年、調達リスクおよびコンプライアンスグループのメンバーは以下のことを行います：

1) 審査および評価

当社は、最初に事業継続プロセスを用いて、またサプライヤの地理的場所、商品またはサービスの種類、サプライヤおよび第三者の評価と共にマイクロンの歴史を考慮に入れてサプライヤを評価します。当社は、新規サプライヤに対して追加で審査を実施します。

2) スコア

当社は、事業継続性計画策定プロセス、倫理、場所、強制労働、環境と安全に重点を置いて製造レベルでサプライヤを把握します。当社は、製造または事業の混乱に関連するリスクを決定づける運用リスクスコア、および責任とコンプライアンスに関連するリス

クを示すサプライヤ責任/コンプライアンスリスクスコアを指定します。各スコアは、高い場合も中間または低い場合もあります。

3) 監査

高リスクと特定されたサプライヤは、サプライヤが当社の行動規範に準拠していることを確かめるために直に合って監査される場合もあります。

4) 改善と成長

当社は、軽減計画を策定し、コンプライアンスに外れたと判明したサプライヤの行動改善を要請するかあるいはサプライヤは供給拠点から外される場合があります。マイクロンは、サプライヤのリスクプロファイルを改善させるために是正行動計画、スコアカードの見直し、またはその他の計画を定める場合があります。

マイクロンは、多数のその他の会社のサプライチェーンの一部でもあります。当社は、サプライヤとお客様の双方の関係として、サプライチェーンパートナーと対話する深い経験があり、多くの自社のサプライヤと同じ監査手続きに準拠します。2018年、すべての12カ所のマイクロンの製造施設は、RBAプラチナ認識としてこれらのサイトを資格認定してRBA監査上で200点の完全スコアを獲得しました。

強制労働と児童労働

マイクロンと当社のステークホルダーは、当社のバリューチェーンに沿って人権を推進することを支持します。

当社の企業行動規範は、RBA行動規範と整合され、児童労働および強制労働は、事業のどの段階でも許可されることはないと明示的に表明されています。工場は、これらの基準に準拠しているかどうかを定期的に監査され、当社の人権方針は、従業員は16才以上であることを要求されています。マイクロンは、自社のオペレーションにおける最高レベルの労働倫理を積極的に支持することに取り組み、また当社はサプライヤ、請負業者、およびジョイントベンチャーパートナーに対し当社の規範、児童労働法および強制労働法を遵守することも要求します。2018年の期間中、当社は、2019年初頭に公表された新しい人権方針を通して自社の見解を明言することに取り組みます。

当社のこれらの懸念へのコミットメントは、当社の奴隷および人身売買声明を通して公表されます。この領域において進行中のデューデリジェンスの一環として、当社は、人権違反のリスクによりさらされる地域内のオペレーションに対して特別に重点を置き、サプライヤがこの問題にどのように旨く対処するかを理解するためにサプライヤのリスク評価を定期的に実施します。これらの重要な問題以上に、マイクロンは、当社のサプライチェーンに関連する人権に対する以下の懸念も監視します。

- 勤務時間
- 公正な賃金と諸手当

- 労働者の健康と安全
- 無差別と反ハラスメント
- 結社の自由

セキュリティ業務から建設業務までの能力でマイクロンのサイトで就労する人なら誰に対してもこの人権の監視から始まります。そのことは当社のサプライヤの従業員およびサプライヤが臨時雇いした人、すなわち、世界のある地域で外国移民労働者と呼ばれる人にも及びます。多くのマイクロンのサプライヤはアジアに所在しますが、それらの労働者に対する人権違反は文書化されています。例えば、労働者は彼らのパスポートを保留されるかまたは雇用される前に募集料または管理料を課せられる場合があります。これらの料金は、7ヶ月以上の給料になることもあり、労働者に貸付けを受けることを要求し、効果的に彼らに仕事に就かせて強制的に支払わせます。さらに、大多数のこれらの労働者は、自分の家族を扶養するために母国へ自分の給料の大部分を送金し、特に負担となる貸付や料金の支払いを行います。

強制労働を制限しているRBA行動規範要件は、当社がビジネスを行う多くの国で料金、課税および労働時間に関する法律により様々です。このことが複雑さを増し、当社は、現地法およびRBA規範が違う場合、より一層厳格な基準を実行します。マイクロンは、トレーニング、行政職員との対話およびその労働条件について外国の移民労働者との面接を通して当社のサプライチェーンにおける強制労働者問題の解消に際し、RBAのその他のメンバーと共に積極的に関わります。

マイクロンは、最近、外国移民労働者の経験をより良く理解するためにRBAおよび台湾の数社のサプライヤと連携して、これらの場所で発生している場合がある違反に取り組んでいます。2018年にこれらの2社のサプライヤについてのアセスメント期間中に、彼らは、これらの労働者に対して料金を課していなく、勤務時間に関しての問題もないことが判明しました。アセスメントの一環として、当社は、労働者の増加により、1カ所のサプライヤのサイトで幾つかの寄宿舎が過剰収容であることを発見しました。当社は、その労働者の生活条件に対して即時に改善を行うようこのサプライヤに要求します。マイクロンの目的は、当社のカギとなるサプライヤ間での母国から労働する国への外国労働者の今までの経過をさらに継続して調査し、如何なる強制労働違反にも取り組みます。内部トレーニング以上に取り組み、各施設のリスクプロファイルの理解に向けてより大きく前進することにより、マイクロンは、当社のサプライチェーンに生じうる問題の一步先を行くことができます。

RBA行動規範

最高の結果は、当社の業界が協力して取り組む場合に実現します。RBAは、社会的および環境的な責任に関する一組の期待および準拠を証明する単独のプロセスを支持するに際し、重要な役割を果たします。RBAトレーニング資料、監視リングツールおよび第三者の監査を通して、当社は、責任あるオペレーションを維持管理するために、重要なサプライヤの取り組みをサポートすることができます。当社はサプライヤがコースを外れる場合、彼らに責任も持たせることができます。自社のオペレーションにおけるRB

A規範を遵守するために、当社は、規範要件に関して従業員のトレーニングおよび私たちの行動を確認するために第三者の監査人を用いることを含めた精力的な管理アプローチを採用しています。当社のグローバルRBA監督チームは、法律、人的資源、EHSおよびサプライヤ管理部門からの代表者から構成されています。彼らはすべての製造所にわたり重要なRBA尺度を監視し、マイクロンの全体的RBAパフォーマンスに関して四半期毎のレポートを審査します。

責任ある鉱物調達

マイクロンは、紛争鉱物に関する取り組みおよび報告を行うためのプログラムにおいて長きにわたってリーダーとなっています。多くのテクノロジー企業と同様に、マイクロンは、当社製品の製造におけるスズ、タングステン、 tantalumおよび金の使用に依拠しています。

紛争鉱物として知られるこれらの材料は、コンゴ民主共和国（DRC）および周辺国に豊富に存在し、この地域では、持続する紛争および人権違反に堪えています。しかし、当社は、それらがどのように取得されるかについての社会的・環境的な懸念に基づく論争の対象となる4つの紛争鉱物以上に原材料があることを認識しています。EUにおいて、新たに出現している規制は、DRCだけでなく、世界中のすべての紛争対象地域および高リスク地域に焦点を絞っています。このことを心に留めて、マイクロンは、鉱物や地形の幅広い入手範囲を網羅して、責任ある鉱物に的を絞った2018年の計画を更新しました。

マイクロンは、製品の製造に使用される鉱物は、DRCまたは近隣諸国における暴力または人権虐待に対して確実に直接的あるいは間接的に資金を出さないことをコミットします。当社は、第三者監査により紛争のないことを確認される精錬所からの調達目標を全面的に採用しています。これを目的として、当社は、紛争対象地域および高リスク地域からの鉱物の責任あるサプライチェーンに対する経済協力開発機構（OECD）のデューデリジェンスガイドラインに定められた国際デューデリジェンスベストプラクティスに準拠し、ドッドフランクウォール街改革・消費者保護法のセクション1502号を遵守するように求められ、この法律により公に取引を行う米国企業は、サプライチェーンにおける紛争鉱物に関して追跡、監視および報告を毎年行うよう要求されます。

政府、業界およびコミュニティ間の共同作業は、紛争のないサプライチェーンを実現するためのカギとなります。この基本的な考え方を反映して、マイクロンは、紛争鉱物サプライチェーンへの取り組みをする共通アプローチを開発し、その他の鉱物を含めて拡大する場合がある将来の手順を策定するために鉱物業界の全体に携わるコンソーシアムである、責任ある鉱物調達イニシアチブ（RMI）の創立メンバーです。RMIは、第三者による監査プロセス、デューデリジェンスツールおよび各精錬所が紛争に関わっていないという公開情報データベースの文書化から構成されています。2018年、マイクロンは、業界の非電池コバルトレポーティングプログラムの拡充を積極的に支援しました。当社は、RMIの業界プログラムが2019年後半に着手される時に適用できる場合、当社の全体のサプライチェーン内ですべての可能性あるコバルト使用方法を調査しました。

マイクロンが当社の責任ある鉱物調達方針目的を達成するためには、当社は、サプライヤに対し責任ある鉱物調達プログラムに準拠するよう求めます。サプライヤコンプライアンスには以下のことが含まれます：

- 鉱物紛争が発生した精錬所の身元を含めて、マイクロンに販売される製品にあるかも知れない紛争鉱物供給源を開示する完全かつ最新のCMRTを提供すること
- 全体のサプライチェーン内で精錬所または精製所の変更がある場合、2週間以内にCMRTを更新すること
- 紛争のないサプライチェーンを実現するという目標に専心した紛争鉱物方針の採用
- 施設監査への参加および円滑化、紛争鉱物方針、紛争鉱物手続きおよび関連記録
- 自社のサプライヤに対して紛争鉱物調達方針を指図すること

簡単にすると、マイクロンは、確実に当社の既存サプライヤが紛争のない精錬所および精製所にのみ依存することを徹底し、当社は、ただ同じことを証明することができる新規サプライヤと関係のみを持ちます。当社は、サプライヤに対して彼らが承認ステータスから落ちる場合、変更するために13週間のサイクル時間を留保します。2018年、不適合精錬所が当社のサプライチェーンから排除される平均時間は、平均して4.25週間で、13週間の目標よりも遙かに早くなります。

当社は、紛争のないサプライチェーンに向けて前進するためにデューデリジェンスに関する透明性と報告を公にすることをお約束いたします。詳細については、年次紛争鉱物調達報告書をお読み下さい。

サプライヤの環境への影響

業界のリーダーとして、マイクロンには、サプライヤの環境に対する姿勢に影響を及ぼす私たちの業界全体にわたって提携するかなり大きい機会があります。

限られた数の装置メーカーにしか、マイクロンの自社プラントにおいて用いられる技術および当社の同業者の技術を提供できません。当社は、水およびエネルギー使用を削減するイノベーションに向かって業界を旨く操作誘導する可能性を秘めています。

マイクロンは、GHG排出削減を含め、サステナビリティへの取り組みにおいて当社のサプライチェーンに積極的に関与し始めました。2018年、当社は、気候変動問題に関してサプライヤへのエンゲージメントに関してCDPからスコアAを手にしましたが、これは部門での平均スコアCを遙かに上回っています。すべてのサプライヤは、すべてのGHG規制に準拠するための必要条件を盛り込んだ当社のサプライヤ品質要件文書（SQRD）を手にします。その他のタイプのリスクに関して、

当社がサプライヤを評価する方法と全く同じ方法で、当社は、エネルギー効率の改善、GHGの削減、および管理、取扱いおよび固体廃棄物、廃水および大気放出の最小化を図るために高リスクかつ重要なサプライヤの計画を調査します。当社は、リスクスコアを

作成してその結果を評価します。高リスクスコアまたはプログラムやプロセスにおいて不備があるサプライヤは、開発および改善計画に参加させられます。マイクロンは、サプライヤの資源およびデータをより容易に管理できるソフトウェアシステムも使用します。これにより、引き続き、当社のサプライヤに対する高い期待度を支えるために用いられるカバレッジ、リソースおよびプロセスの改善がなされます。

マイクロンのサプライヤ評価プロセス

毎年、マイクロンは、コンプライアンスとオペレーションリスクの双方に関する新規先および既存先のサプライヤを評価し、予想されないイベントに際して、当社のサプライチェーンを継続して監視します。このレベルの監督は、責任ある調達パフォーマンスを向上させるマイクロンの取り組みを証明しています。

人

活気ある職場に焦点を絞った取り組みが必要です。従業員は、当社のビジネスの基幹となりますので、従業員のキャリア形成に関して彼らと今まで以上に関わりサポートしていきます。

マイクロンは、高品質、最先端メモリとストレージソリューションを設計、開発および製造するために勤勉で、粘り強くかつ高学歴の従業員の労働力に左右されます。当社の従業員は、18カ国の様々な国に配置されています。従って、職務部門と地理的要素にわたって統一された文化を創造することは、マイクロンのビジョンとミッションを実現するために極めて重要となります。

当社は、雇用において最高品質の人材を追い求め、従業員がマイクロンでのキャリア全体を通して力強く成長することができる職場環境を維持管理します。当社の従業員とのコミットメントは、人の基本的価値観に反映され、また倫理的で、多様なインクルージョンの精神がある職場環境へのエンゲージメントを提供することに視点を置くことにより実証されます。

エンゲージメントと定着

極度に競争的な業界環境において、最善かつ最も聡明な人材を雇用することは、当社のビジネスにとって絶対必要な戦略です。

過去何年もの間、当社は、従業員とのエンゲージメントおよび定着を増強するためのプログラムにおいて投資を増大させてきました。仕事に従事する従業員は、専門的に目標を達成する傾向があり、当社の業績は、その結果としてより良くなります。

例えば、従業員とのエンゲージメント調査を通して得られた洞察力に対する反応は、企業レベルで以前は取り扱われていました。しかし、このレベルの監督は、多くの場合、変化に対して効果が現れるのはゆっくりであることを意味します。新しいプログラム、「Engage!」により、2年に1回の調査結果に基づきレビュー、討論および行動を共に実行することによってリーダーとそのチームとの間のエンゲージメントが増します。Engage! は、ただの調査以上のものです、すなわち、説明責任を創り出す調査により、また進展を計る手助けをすることによりチーム内のエンゲージメントについての定期的な対話のきっかけを作ることが目的です。調査の質問は、従業員に「私の上司は、タイムリーかつ意義深い認識をします。」および「仕事に、私の人となりに対して私は敬意を払われています。」というような発言で上司の同意を得るレベルを示すことを促されます。2018年7月のEngage!における参加率調査では93パーセントで、賛成率は、調査を最初に実施して以降、増加しています。当社は、「私は、個人的なエンゲージメント、モチベーションを持たせるマイクロンの文化を見つけました。」との発言で少なくとも60パーセントの同意に達する目標を設定しました。

従業員の照会プログラム

あなたが知っているどなたからの推薦よりもマイクロンでの経験の利点ほどより良い推奨はありません。それでマイクロンは、現在の従業員が仕事仲間と友人とで求職のシェアをすることができるオンライン照会プログラムを創設しました。従業員は、共有するお得意様URLを手にして、従業員は、地位につけば報酬を得ることができます。従業員の42パーセントがそのプログラムに参加しており、今や、すべての外部雇用の22パーセントが照会から発生しています。

ダイバーシティとインクルージョン

多国籍企業として、マイクロンは、本当のイノベーションは、当社の従業員の特異な経験、見識およびバックグラウンドからくることを知っています。

私たちは、勤勉に働き、当社が操業する地域内で可能な限りの人材プールを引きつけます。女性およびマイノリティ候補の高い比率を生み出す大学および教科課程からの募集に重点を置くことが増えているのは、私たちに多くのダイバーシティ形式に富む職場を形成する一助となるからです。同時に、当社はすべての従業員が成長し繁栄することができる包含的な文化を育成します。

この仕事には終わりが無いことを認識して、当社は、引き続きダイバーシティを埋め込み、当社が運営する方法へ包み込むために私たち自身に挑戦します。マイクロンのCEOであるSanjay Mehrotraは、ボーカルダイバーシティの提唱者であり、ダイバーシティとインクルージョンのCEO行動の署名をしています。マイクロンは、最近、米国および日本において従業員と共に独立型のダイバーシティとインクルージョン (D&I)機能を設けました。戦略的かつ戦術的組織は、ビジネスに洞察力、大使の任務および取り組みに対する説明責任をもたらします。これらには、カギとなるマイクロンの幹部および代表者が幅広い範囲のマイクロンの部門およびロケーションに及ぶD&I諮問委員会から構成されるD&I評議会が含まれます。

マイクロンは、従業員のリソースグループ (ERG) の融資および承認をすることを通して直接に従業員をサポートします。これらのグループは、組織内の特定の母集団への指導、ネットワーキングおよび可視化を提供します。現在、3,000人以上のマイクロンの従業員は、世界中で28以上の支部を有す (従業員リソースグループ) (ERG) に参加しています。

以下に関する視点同一賃金の追求

マイクロンは、多くの重要な投資を当社の事業で行っていますが、当社が従業員に実施するものよりもより重要なものは少ないです。当社は、すべての私たちの世界中の現場で同様の職務には男性と女性に対して同一賃金を支給することをお約束いたします。2019年度を始めるに当たって、当社は、1パーセント未満の差を確保するための追加報酬において230万米ドルを投資いたしました。当社は、引き続き、当社の職場にわたって同一給与に優先順位を付け、存在し得る格差に取り組む必要がある基金に投資します。

安全、健康と安定

安全、健康および安定した職場を維持できるように、職業病および傷病を防ぐための積極的な取り組みをします。

マイクロンは、文化、堅牢なマネジメントシステムおよび効果的安全プログラムに重点を置く安全に対する総合的戦略を実践しています。当社の経営陣と世界中の安全チームとの間の緊密な協力は、リスクが確実に系統的に事業から取り除かれるよう私たちがさらにデータ管理ツール、重要業績評価指標（KPI）、監査プロセスおよび正式なフィードバックループを策定する時、達成されます。

ケアと懸念の文化は、安全において、私たちに優秀性を追求させます。当社の安全への取り組みは、重層構造からなり、すべての従業員に関係してきます。

マイクロンには、職業上の危険を自発的に認識し管理するプログラムがあります。危険を特定した場合、マイクロンは、活動中の施設内のリスクをサプライヤおよびベンダーと組んで設計および商業上の手段を通して、当社の事業から取り去り軽減します。例として、マイクロンは、当社の生産オペレーションと直接結びついたリスクの除去および低減をする戦略として有害化学物質やガスのライフサイクルに対しての危険分析および危険管理という安全プロセス管理、リスクに基づく取り組みを実行しています。このことは、大多数の国においてマイクロンにとっては規制要件ではないですが、当社は、従業員の安全を確保する業界リーダーとしてマイクロンを位置づけるベストプラクティスとしてこのことを捉えています。

<p>健康と安全委員会 (経営陣と非経営陣である従業員の双方で構成されるあらゆる製造現場において)</p>	<p>全体的安全オペレーションおよびコミュニケーションの推進</p> <p>メッセージが安全プログラムを強化し、安全な態度を認識し、エンゲージメント活動を強調すること</p> <p>OHSAS 18001認証のガイダンスに沿うこと</p>
<p>マネージャーと現場監督者</p>	<p>安全、安定および法令遵守した職域をリードし、実践し維持管理すること</p>
<p>すべての従業員と請負業者</p>	<p>EHS危険とリスクを特定、除去および管理することに協力することができる</p> <p>当社の企業行動倫理規範に記載されたものを含め、EHS手順および該当する法的要件に準拠すること</p>

当社のグローバル施設全体を通して統一された企業文化および共通する安全慣行を展開するに際してのマイクロンの投資には、当社の安全KPIの強化が含まれています。当社は、経営行動および安全へのエンゲージメント、および技術安全プログラムの実行をより良く測る一連のKPIを実施しています。

その対策は、世界クラスの安全パフォーマンスの道程へ私たちを持続継続にさせるそれらの取り組みを推進し追跡することを目的としています。当社は、引き続き記録可能な負傷率0.32を報告します。負傷がない職場作りをすることは、最低限の期待ですが、仕事中の従業員の安全と健康を保持することは、単なる私たちの取り組みの一つの側面ではありません。

「良く選びよく生きる」というプログラムは、サイトレベルとグローバルプログラミングを組み合わせた従業員のウェルネスプログラムです。従業員は、このプログラムに参加することによって、またウェアラブルウェルネストラッカーを用いてそれらの進展を測ることにより財政的にウェルネス奨励金を得ることができます。

さらに、当社は、仕事と家庭生活との間のバランスを求めるよう従業員を促しています。当社は、2018年、世界中で新しいフレキシブルワーク取り決めガイドラインを展開しました。マイクロンは、すべての部門の従業員は、6日毎に1日の休日があり、1週間当たり60時間以下の労働をすべきであると記載する労働時間に関する責任あるビジネスアライアンスガイドラインを履行しています。当社は、従業員のメンタルヘルスをサポートし提供することも拡大しています。ガイダンスリソース・チームメンバー・アシスタンスプログラムは、感情的な問題および結婚生活の問題、財政および法的事項、および薬物とアルコール依存などの問題を含め、人生の浮き沈みのある時期の助けとなります。

働きがいのある会社

マイクロンは、「働きがいのある会社研究所」により独立したリサーチと分析に基づき2018年に働きがいのある会社に挙げられました。マイクロンは、トラストインデックス[®]従業員調査およびカルチャー監査[®]マネジメントアンケートを含む、当社の人中心のプログラムおよび従業員による匿名調査で提供されたフィードバックに基づきこの資格認定書を獲得しました。この証明書は、従業員が彼らのマイクロンでのキャリアを通して力強く成長でき、倫理的で、多様なインクルージョンの精神がある労働環境に関わる当社の持続的なコミットメントを反映しています。

職能開発

並外れた能力を持つ人を引きつけ定着させるために、当社は、創造性、リーダーシップおよび協調性を鼓舞する労働環境の醸成を通じて、当社の従業員の持続的学習と能力開発に投資します。

「学びと成長」というアプローチを用いて、当社は、従業員が学び成長し、力をつけ、個人の成長とパフォーマンスを可能にするリソースおよび機会に結びつけて奮い立たせるために環境を創造します。当社は、マイクロンが従業員の個人の能力開発をサポートするために提供するリソースを用いて、彼らの自身の能力開発の優先順位を選択し主導するために従業員を奨励します。

学習により多くを具体化することができます。従業員は、コンピュータ、そしてウェブベースのトレーニング、遠距離教育、およびオンサイト大学教習課程および最先端テクノロジーに基づくトレーニングにアクセスします。マイクロンの従業員は、当社の社内学習管理システムを通して、また文化に対する意識、個人およびプロとしてのスキル構築、および業界関連の研究に私たちがアクセスするシステムを通して技術上およびビジネス上のスキルトレーニングに直接アクセスすることができます。彼らは、マイクロン—TLPテクニカルジャーナル、テクニカルリーダーシッププログラム (TLP) 、並びに各種技術セミナーのメンバーが発行する記事を用いて、社内、同僚がレビューするアーカイバルジャーナルにもアクセスすることができます。マイクロンの学習管理システムにより、従業員は、彼らに与えられた項目を見ることができ、カタログや自己に割り振られた項目を検索することができます。ユーザーは、インストラクター主導の学習を要請または登録またはオンライン学習にアクセスすることもできます。従業員は、彼ら

の能力を伸ばし、新しい役割の資格を得ることになり、当社の社内求人により会社内で自らを成長させることができます。

マイクロンのリソースはまた、従業員が彼らの教育計画を準備および業界の関心やキャリア開発を最もよくサポートするプログラムを選択することができ利用可能となります。マイクロンは、適格資格がある従業員がより高度な教育学位を追及する学費を提供し、追加的業界関連のコースや認定書を求めるものの教育支援プログラムを提供して、継続的な教育プログラムを与えます。学習プロセスについての当事者意識を持つ従業員が参加することにより、当社は、能力開発の優先順位を特定させる権限を与える建設的学習の考え方を育成し、能力開発をサポートするリソースを発見し、そのことが意図的に新しい経験に意味深い方法で関わらせることができるようになります。

当社の従業員はまた、お互いから多くを学び教えあいます。マイクロン全社にわたって、従業員は、彼ら自身が指導者となる様々な機会があり、または指導者として役目を果たします。例えば、マイクロンのTLPは、経験豊富なシニアテクニカルリーダーを新入の従業員とペアを組ませます。マイクロンの女性のリーダーシップネットワークは、グループ、マンツーマンおよび主題の専門家と共にスキルをベースとしたメンタリングなどのいろいろな指導アプローチを提供します。当社は、これらのプログラム全体にわたって使用される共通メンタリング戦略を提供します。ハンドブックは、英語、簡易かつオーソドックスな中国語、日本語およびマレー語で入手可能で、全従業員が利用可能です。

当社は、2018年、これらの各種メンタリングプログラムの価値及び影響力を理解するために調査を実施しました。回答者のうち、79パーセントは、彼らの仕事への満足と関与を高めるメンタリングに関わっていると答え、72パーセントは、メンタリングがマイクロンで在籍し続けるための彼らの希望を増したと回答しました。

チーム全体にわたっての協調をサポートするために、マイクロンは、緊急時ツールを使用し、それは、積極的に考えと態度の多様性を受け入れるよう従業員を促します。アンケートに記入後、従業員は、仕事および家庭での自身の行動についてより深い理解を得るために用いることができる緊急時プロファイルを手に入れます。リーダーは、その従業員のプロフィール結果を用いて、最大限にチーム効果を発揮する一助とします。このプログラムが導入されて以降、11,000名以上のリーダーおよび従業員が彼らの特注のプロファイルを受け取りました。チームは、直接直かにまたはeラーニングセッションにも参加でき、プロファイルへの洞察力の適用方法について学びます。

従業員株の購入計画

従業員株購入プラン (ESPP) により、マイクロンの従業員は私たちの成功に応じて株を持つことができます。2018年に導入されたこのプログラムは、参加者に対し期首または期末の株価のうち、いずれかの底値に近い方に基づき、またその株価で追加で15パーセント割引でマイクロン株を購入することができます。従業員は、1年に2回、ESPPに登録

することができ、彼らの給与の10パーセントまで負担することができます。プログラムが導入された場合、私たちの社員の半分が参加することを選択しました。

あらゆるレベルでのリーダーシップの養成

マイクロンは、高い潜在能力を有する従業員をリーダーシップおよび技術スキルを養成するための機会を結びつけます。リーダーシップ養成プログラムは、新しく開発されたスキルと行動パターンを用いて危機に瀕したビジネス事案を解決するために、現在および将来のリーダーに挑戦させるために単なる授業以上のことを行うことを意図しています。

シニアリーダー

- 活躍中のマイクロンのリーダーシップ (MLA)
- 12週間のプログラム
- 実社会でのコーチや幹部のスキルコンパニオンからのガイダンスを受ける

中堅レベルのリーダー

- 将来のシニアリーダーになるために必要なスキルを得る
- マイクロンの要諦に影響を及ぼすプロジェクトへの貢献
- 会社の進化を推進するために必要なリーダーシップおよびネットワーキングスキルの取得と洗練

明日のリーダー

- 将来のリーダーのプログラム
- 将来のリーダーの保持とエンゲージメントは、才能の供給ルートを維持する

マイクロンのテクノロジー

- 内部の技術ジャーナル、セミナー、フォーラムに貢献するためにスポンサーとなる機会により指名された従業員のための技術リーダーシッププログラム
- マイクロンの社内のTLPメンバーを区別する認識と報償
- 個人の貢献者として、リーダーとなる人をよく育てたいと必ずしも思わない技術者を激励すること

コミュニティ

他人のために行うことでより物事がうまくいきます。マイクロンは、当社の従業員の優先順位を綿密に考慮し、それに沿ってプログラムを組むことを新たに心に描いています。

当社は、当年期間中に合計して 100,000時間のボランティアを行う目標を設定し、当社は予定より2カ月前倒しで到達しました。

マイクロンは、当社の従業員が生き生きと働くコミュニティへ還元するしっかりと根付いた伝統があります。そして、過去20年間の間、マイクロンの礎は、これらの取り組みの中核としての役目を果たしています。この礎を通して、当社は、幹となる教育の推進、基本的人間のニーズへの取り組み、および当社の従業員およびコミュニティへの優先順位および価値とにより一層綿密に人に与えることの実践に沿ってプログラムをサポ

ートし開発を助けます。当社の還元プログラムは、当社が一番の企業価値、すなわち、人をサポートすることです。コミュニティへの還元の恩恵は、容易に理解されますが、どのような重大さをもって企業の社会的責任が従業員と関わることなのか、また責任ある企業市民であることにより次世代の才能を募集し、還元の文化を創造します。

当社は、引き続き当社の慈善活動とボランティア精神を含め、会社のすべての観点に対して、マイクロンの新しい企業価値と目標を推進します。2018年の期間を通して、当社は、還元戦略を改革し、すべてのボランティアを組織化して、Micron Givesと呼ばれる新しいプログラムに基づく贈り物の取り組みを適合させる改革をしました。プログラムは、新しいプログラムでボランティア精神により強く重点を置き、当社の従業員にとって最も問題視されるコミュニティおよび組織に還元する資源を向上改善することを促します。

プログラムを開始するために、当社は、当年中に合計して100,000時間のボランティアをする目標を設定しました。従業員は、予定よりほぼ2カ月前倒しで到達し、マイクロンは、150,000時間の目標を持ち、2019年にこの目標を超えるために従業員に挑戦させております。従業員がこの目標に貢献できるように、当社は、正規従業員がコミュニティへの奉仕を実行するために16時間までの有給休暇を許可し、パートタイム従業員およびインターンは8時間を手に入れることができます。

マイクロンは、1年につき従業員1名あたり年間最高額で2,000米ドルまで、また会社全体で最高額で200万ドルまで資格ある慈善組織へ従業員の寄付を競わせることもしています。還元キャンペーンは、2018年11月の火曜日に開始し、基金は、ちょうど3週間で寄付にして1,300,000ドルに匹敵しました。

従業員の寄付には、それぞれのサイトの「選択した慈善団体」への贈り物を含めることができます。このプログラムを通して、従業員は、たいていのものおよびコミュニティが重要と見なす慈善行為に投票します。その後、サイトは、当年の間そのボランティアへの取り組みに焦点を当て、勝ち組の組織に対し資金の寄付を行います。

科学とエンジニアリング教育の推進

マイクロンは、メモリとストレージソリューションにおいて、グローバルリーダーとなる才能ある科学者やエンジニアに依存し、イノベーターおよびどのように、またなぜ私たちが還元を自然に協調して行うかについて彼らに教える人を育成します。

礎となる軸の補助金は、教育者に彼らが学生間で軸に対して情熱をスパークさせる必要がある資源、トレーニングおよびツールを与え、学生自身のエンゲージメント、実践経験を創り出します。署名活動には以下が含まれます：

- 第7学年または第8学年を終了した学生を対象とするチップキャンプ、自由な3日間サマーキャンプ。キャンプは、半導体産業に関連する科学およびエンジニアリング活動の実践に焦点を当てます。マイクロンのエンジニアおよび専門家が率い

る活動には、アイダホ州ボイジーにあるマイクロンのグローバル本部への訪問が盛り込まれます。

- 技術プログラムに行く女子は、技術キャリア選択および数学、科学およびテクノロジーの上級コースを若い女性に経験させることを目的としています。2018年、このプログラムは、台湾へ拡大されました。
- 辺境地で子供たちに実践的科学的体験をさせるために列車が台湾の旅を通してのプログラムにある人気の科学の台湾鉄道は、都市と地方地域とのSTEM教育のギャップを橋渡しする一助となります。

マイクロンの礎となる大学との関係の取り組みにより、半導体関連分野において大学生および卒業生に対してユニークで実践的な機会を提供する学生に焦点を当てた融資プログラムにより未来を創造できます。これには、フェローシップ、研究調査シンポジウムにおける学生の競争および参加の支援が含まれます。礎はまた、教育者と協力して、進行中の研究調査への取り組みを支援し、贈り物を通してエンジニアリング教育を向上させます。この多くは、マイクロンのエンジニアにより刺激を受けて、半導体材料、装置およびプロセスの進歩に関係します。

以下に関する視点米国、バージニア州

マイクロン基金は、次世代の技術者、科学者およびエンジニアを教育する一助としてバージニア州の短期大学および大学に100万ドルを約束しています。バージニア州の高等教育研究所のダイバーシティ・機会基金は、クリーンルームやナノテクノロジー実験室、無人、自律型自動車システム、ロボット工学、ビッグデータ、組み込み型システムおよびネットワークキングの用途の領域におけるプログラムをサポートします。女性および代表者が不足しているグループに焦点を当て、低所得で一流の大学生プログラムを支援するプログラムは、特別な配慮を受けます。

基本的な人間のニーズへの取り組み

マイクロンの市民権への取り組みには、自然災害による影響を受けた人にする救援物資から飢えた人に対する食事まで、私たちのコミュニティ内の人々の基本的ニーズを満たす一助となることが含まれます。